

千葉 13 区市民連合第 1 回全体集会 山口二郎さん講演メモ

□ : パワーポイント原稿

日時 2018 年 4 月 15 日
場所 印西市立中央駅前地域交流館

演題

「わたしたちは政治を変えられる」
「憲法と民主主義の危機を乗り越える。」

憲法と民主主義の危機を
乗り越える

法政大学
山口二郎

昨日は国会前に延 5 万人が集まり車道に人があふれた。国民の怒りがあふれている。
チャーチルの映画を見たが、安倍首相も見たはずだ。たぶん彼は真逆の教訓を得たと思う。チャーチルは「自由と民主主義を守るため」に国民を鼓舞した。印象的なせりふで「We shall never surrender」がある。しかし安倍は国民が無力感に陥るのが目的のようにつこく怒りを表明し続けることが肝心と考えている。安倍は市民に屈しないと考えているのか。今日は改めて政治の状況を話したい。

1 日本政治の大きな危機

① アベ化とは何か

- ・ 自己愛の強い幼児的リーダーの跳梁跋扈
- ・ 批判に対する耐性の消滅
- ・ 虚言、デマをためらわない、ウソがばれても恥ずかしくない
- ・ 事実と虚構の区別ができない反知性

民主主義の劣化を私は安倍化と呼んでいる。安倍政権の特徴を整理すると「自己愛の強い幼児的リーダー」「批判に対して凶暴」になる。怒りの矛先はメディアと学者。「虚言」をためらわない。「とんでもない嘘っぱちを連発する。」「事実の虚構の区別がつかない。」「反知性主義」などだ。

八方ふさがりの安倍政権

- ・ 朝鮮半島における平和の創出という流れから取り残される
= 北朝鮮脅威を国内政治に利用してきたことのツケ
- ・ 米トランプ政権から貿易戦争の敵国に指名される
= 日米は 100% 一致という虚構
- ・ 嘘偽りにまみれた行政
= 国民の正義感を軽く見ていた

安倍政権は国際情勢について北朝鮮情勢に関しては平和を作ることに反対しているのかとしか思えない。北朝鮮の脅威緊張が無いと安倍政権は持たない。一方韓国の政権は冷静に

話し合いの道を探っている。日米関係では一体といいながら安全保障を理由に高関税を課せられた。

② イヤな時代の本質

- ・戦争のできる国になった日本
- ・メディアの抑圧と情報の隠蔽
- ・戦争は嘘から始まる

いやな時代になってきている。安保法制を確立し戦争のできる日本となった。映画「ペンタゴンペーパー」を是非見て欲しい。ベトナム戦争までのアメリカ政府の動きをワシントンポストが報道したのが題材になっている。うそをつかないと戦争は始められない。

イヤな時代の兆候

- ・画一化への大きな圧力
- ・学校教育における道徳と愛国心
- ・国を愛するとはどういうことか
- ・大逆事件と徳富蘆花の『謀叛論』
- ・守るべき伝統とは何か

戦争のできる国は国民の一体性を求める。それは学校教育、家庭に関する教育に顕著に現れている。国を愛するとは色々ある。

- ・斉一統一は美観である。事ある時などに国民の足並みの奇麗に揃うのは、まことに余所目立派なものであろう。しかしながら当局者はよく記憶させなければならぬ。強制的の一致は自由を殺す、自由を殺すはすなわち生命を殺すのである。
- ・諸君、謀叛を恐れてはならぬ。新しいものは、常に謀叛である。

幸徳秋水大逆事件は 愛国を上から押し付ける契機となった事件で徳富蘇峰は次のように反論した。「自由を殺すはすなわち声明を殺す。謀反を恐れてはならない。政府のやったことを隠すは偽者の愛国心だ。」

公共の意味をだれが定義するか

- ・高校における「公共」という科目
現代社会の基礎知識
しかし、基本的人権も平和主義も教えない
- ・社会を担う市民としての自覚と責任感とは何か
- ・銃規制を求めて立ち上がったアメリカの高校生

道徳の中で愛国心を教えるなどは大いに注意しなければならない。高校の公共の科目で憲法などは教えず、愛国心を取り上げている。公共の一番の教材はアメリカで立ち上がった高校生だ。悪い政策、悪い法律に対して声を出し論理的に反対することこそ愛国だ。地域社会における道徳教育にぜひ声を上げて欲しい。日本会議は着々と声を出して今の状況を作っている。

③ 国家の私物化

- ・ 森友学園、加計学園疑惑の本質：お友達優遇政治
- ・ 縁故政治とコネ社会
- ・ 行政の公平性の破壊
- ・ 悪いのは官僚だけではない

国家の私物化（森友・加計問題）は近代国家を壊す犯罪的問題だ。政治を信頼できない状況を作り出すえこひいきの横行だ。

専制国家日本

- ・ 法の支配：為政者が法に従って統治する

- ・ 家産制国家：近代以前の統治の姿

次第に共同体（国家）の規模が拡大していくと、支配者は支配の効率化のために官僚や軍隊を備えるようになり、この力を背景として被支配者をある程度まで恣意的に支配できるようになった。これが家産制であり、自らに忠実な官僚・軍隊組織を介在させた恣意的な支配が可能な体制である。

近代国家を壊し家産制国家を作ろうとしている。法の支配の原理が重要であり、国有地は国民の財産で処分には法に従った処置が必要だ。前近代は個人と国家の境目があやふやな時代で、今は公私のけじめの崩壊が起きており前近代と同じ状況になっている。

法の支配から人の支配へ

- ・ 権力者の私的な支配が国全体を覆う
- ・ 人の支配：あるものをなかったことにできる
- ・ 政府内部における規律の崩壊
官僚は権力者に身分的に隷属する使用人
- ・ 政府の外に対する権力の乱用：罪刑法定主義の否定としての共謀罪

法の支配から人の支配への逆行が起きている。権力の私物化と権力の乱用が起きている。家産国家といわれる身分的な支配、奴隷の世界となっている。政府の中における規律の崩壊だ。共謀罪のような権力の乱用を招く法律を作るようになっており、罪刑法定主義を崩壊させている。

大衆の反逆（オルテガ）

- ・ 《慢心した坊ちゃん》はとてつもなく異常なものだということがわかると思う。なぜなら、彼は自分でしたい放題のことをするために生まれ落ちた人間だからである。
- ・ 実際、《箱入り息子》は、自分の好きなことをしてもよいという錯覚を持っている。
 - ・ ・ 実際家族のないぶでは、ひどい罪を含めて何もかもが、結局は無罪となるからである。
 - ・ ・ しかし《坊ちゃん》は、家の外でも家の中と同じように行動できると信じている人間であり
 - ・ ・ 取り消しがきかないものは何1つないと信じている。

このような乱れた政府のトップに立つ安倍首相は何を考えているのだろうか。慢心した坊ちゃんとのオルテガの記述があるが、その特徴は欲望のコントロールが無い。法律で明

示されていないことは何でもできると考えている。法解釈、報道、経済運営を自分の子分を入れ込み一色に塗りたくる。お友達を優遇する。家の内と外の区別がついていない。

文書改ざん、隠蔽と文明の崩壊

- ・人間が人間であることの証：文字による記録
- ・確定した公文書を後から書き換えることの犯罪性
- ・敗戦後の証拠書類の償却の経験こそ、日本の伝統

文字による記録は人間の歴史だ。人間が知的に発達して文字で記録を残した。これが人間の発達だ。

いつまで森友問題という開き直り

- ・行政の腐敗、ガバナンスの崩壊こそ国難
- ・問題は1年以上前に暴かれた
- ・根拠なき強弁と隠蔽で1年を空費
- ・まだ安倍政権が続く方が奇妙

ネットで安倍を擁護させる人がいるがこれこそが頓珍漢な主張だ。森友問題根拠のない強弁で一年を空費した。これこそ安倍政権の責任である。都合の悪い現実から目をそらす。このような政治こそ国難である。何時まで森友やっているに対しては何時まで安倍政権を続けるのかと言いたい。

断定誠治の末路

- ・安倍政権における断定口調の横行
北朝鮮には圧力あるのみ 日米は100%一体
森友問題にかかわっていたら議員を辞める
岩盤規制の破壊・・・
- ・無謬性に縛られ、変化への対応ができない
- ・最後は官僚がつじつま合わせをする

無謬性に縛られ変化への対応が出来ない。最後には官僚がつじつまを合わせることになる。支離滅裂な政治だ。

④ 政権交代なき議院内閣制

- ・議院内閣制における立法権と行政権の融合
=国会の機能は絵に描いた餅
- ・裁判所に対する内閣の大きな影響力
- ・歯止めとなるのは選挙における国民の意思表示と権力者の更迭

なぜこんなひどい政治が続くのか疑問になるが、やめない総理大臣を辞めさせるのは非常に困難だ。議院内閣制では国会の多数派のトップと同時に行政のトップでもある。行政が不祥事を起しても与党が擁護すれば国政調査権の発動は出来ない。与党が圧倒的多数を持てば国政調査権を使うことは難しい。与党の数を減らす又は世論を高めなければ対抗できない。裁判所は所詮巨大な行政組織でもある。籠池さんはすでに9ヶ月拘留されている。裁判所が法の番人の役割を果たしていない。政権交代しかない。

2 総選挙以後の政治構図

① 立憲民主党結成の背景

- ・ 民進党分裂の経緯：前原と小池の錯誤
- ・ 2015年安保法制反対運動以来の潜在的亀裂
- ・ 憲法政策と市民との共闘をめぐる民主党・民進党内の矛盾

選挙への取り組みについてだが、昨年の総選挙野党の分裂があり敗北した。立憲民主が出来た背景には15年安保法制への取り組みがあった。民主党内には潜在的に亀裂があった。党内に反対する人があり、選挙で顕在化したのが背景だ。

二大政党の幻想

- ・ 1990年代以来の政党再編の挫折
- ・ 小選挙区で生き残るという動機だけで政党をつくることの限界
- ・ 基本的理念を共有するまともな政党の必要性

民進党の分裂を見て、小選挙区制の誤りが露呈している。自民以外の結集ではうまく行かない。小選挙区での当選のみを目的しては不十分だ。

リベラル軸への期待の大きさ

- ・ 立憲民主党が1千万票を超えたのはなぜか
- ・ 民進党の雑居性に対する不満
- ・ 新保守勢力の脱落による「スッキリ感」
- ・ 共産、社民からの移動

リベラル軸への期待の大きさが立憲民主党への期待となっている。野党のあり方が問われている。

野党再編：超えるべきハードル

- ・ 1998年民主党の失敗を繰り返さない
立憲と希望の競争を通して路線を確立
希望を再編に追い込む立憲側のイニシアティブの必要性
- ・ 連投との適度な距離感：支持・協力と政策的な自立性：特に原発問題

いくつかハードルがある。民主党の失敗を繰り返さない。無理に大きな塊を作らない。連合との距離感の問題、連合の利害とは連合の特定の組合すなわち企業の利害となっている。原発問題がその例だ。

京都府知事選では立憲民主無党派がほぼ半々に分かれている。新潟県知事選挙では、原発再稼働の是非が問われたが、野党支持者と無党派層の大半が支持した。野党が一体となり争点を明確にし無党派を取り込んだ結果だ。

立憲民主党の課題

- ・ 地方における組織実体の未形成
＝その地域の国会議員による属人的な選択
- ・ 主要な選挙で選択肢を提示するという使命感の欠如
- ・ 共産党への反発という偏見

② 幅広い結集を

- ・路線の整理：安倍政治に対抗する穏健保守、リベラル、革新勢力の大結集
- ＝詳細な政権構想は不要
- ・まともな民主政治、立憲政治の回復という旗印
 - ・生活できる賃金と社会保障という基本合意

幅広い結集が重要だが、立憲は新人が多く使える政治家が少ないこともあり、希望の党と民進の合併を注視したい。まだ希望は使える。希望は右よりの政治家を除こうとしており、そうなれば対象になりえる。中道2党のイメージでしばらくは動かなければならない。政治家の選挙に関する恨み怨念はすごいものがある。立憲と希望で話をつけ右翼を追い払い来年の参議院に向けて候補者の一本化を図るが現実的だ。有権者のトレンドの割合は2保守、2革新、5無党派で、自民党は無党派を棄権させることで勝利している。投票させないことで勝利している。野党の勝つ条件5のうちの2を選挙に行かせ4にすることで勝利する。政権交代に向けては細かいことは気にしてもしょうがない。「まともな政治、立憲政治の回復」の旗印を掲げる。普通に働けば生活が出来るとの考えからの政策を作る。

野党協力をいかに構築するか

- ・国政選挙において市民連合が果たした役割
- ・地域レベルでも市民運動と政党地方組織の対話、協力を積み重ねることの必要性
- ・究極の理想より、5年先の日本を立て直すという政策の共有を
- ・2020年というターゲット

野党協力をどうつくるのか。議案書にある「今年の活動の経過」を見ると判るが、野党をつなぐ接着剤の役割を市民連合は果たしている。新潟ではうまく行った。新潟の市民連合の力と野党の現実的な認識の結果だ。大阪高槻では辻清美の地元だが市民が力をつけている。人間的な信頼関係があればたいのことは通る。人間的に面白い、正直だと判るような関係。政党の究極の理想とは異なるが安倍政権のむちゃくちゃをどう正すのかどうもとに戻すのかを議論するべきだ。

③ リベラルとは何か

- ・独裁と戦争に反対する：石橋湛山 斎藤隆夫
- ・個人の尊厳を守り、あらゆる差別を許さない
- ・人間らしい生活を可能にするための積極的な政府支出
- ・戦後日本における自民党政治のリベラリズムを継承する

軍部の独走に闘ったのがリベラル、反軍国主義、平和主義が日本のリベラルだ。全ての人が自由に暮らせるのがリベラル、形式的自由ではお金がある力がある人がのし上がってくる。教育の機会、暮らしていける賃金を保証することがリベラル。格差貧困の人に自由を説いても意味が無い。格差の拡大に今こそ手をつけなければ取り返しがつかなくなる。

保守をめぐって

- ・ 本来の保守：人間の不完全性の自覚
漸進的改革
世の中の複雑性を認識
万能薬という発想を拒絶
- ・ 何を保守するかで分岐する日本の保守
大日本帝国の栄光を保守＝安倍的反動
戦後日本の良い部分を継承＝枝野的保守

本来の保守派は人間の不完全性を自覚する、複雑性を認識する、漸進的改革、万能薬の拒否だ。

保守とリベラルの提携

- ・ 戦後日本政治におけるリベラリズムの系譜
 - ・ 平和と平等という成果の確認
 - ・ リベラルと保守の提携による民主主義擁護
- ＝立憲民主党の基軸は村山政権にあり
- ・ 単に経世会、宏池会に戻るということではない

保守とリベラルの提携が必要だ。常識を取り戻す。

村山政権＝1995年合意

- ・ 戦後日本の平和と民主主義の確認
- ＝専守防衛、集団的自衛権の否定
- ・ アジアの中の日本という路線：アジアにおける冷戦の終わりを実現する
 - ・ 安倍政治の出発点としての村山合意
右派の危機感が作った安倍＝日本会議路線

安倍政治の出発点は村山合意でここに危機感を募らせた。右への撒き戻しを行い、日本会議、宗教界を巻き込んだ。

3 壊憲反対の闘いの進め方

① 2018年以後の政治スケジュール

- ・ 今後の政治日程
 - 2018年9月 自民党総裁選挙
 - 2019年4月 統一地方選挙
 - 5月 新天皇即位
 - 7月 参議院選挙
 - 10月 消費税率引き上げ

憲法改悪反対の戦いの進め方は、安倍さんが総裁選に出られるかいなか大きな焦点で再選されれば改憲が現実となる。来年は政治的に立て込んでおり改憲を入れるのは難しい。

2019年改憲発議の難しさ

- ・天皇の代替わり（新時代の到来）と改憲を絡ませることのリスク
- ・参院選と国民投票を重ねることのチャンスとリスク
- ・増税後に予想される消費不況と改憲発議の困難
- ・2018年臨時国会で発議、19年春国民投票というシナリオ

天皇交代、参議院選挙、消費税増税などが目白押しだ。民意は安倍政権下での改憲反対は強く、加憲に反対も多いが楽観は出来ない。首相はタレントとの会食を行っているようだが、改憲に向けてのプロパガンダ実施の布石だろう。国民投票のルール作りの問題もあるが、同時に選挙を行うと改憲運動は野放し、一方選挙では個別訪問も問題視される。大きな矛盾を抱えることになる。

② 憲法をめぐる民意

- ・2018年1月13,14日の共同通信調査
(単位：%、カッコ内は昨年12月調査)
- ・安倍首相の下での憲法改正に
賛成 33.0 (36.0) 反対 54.8 (48.6)
- ・憲法9条に自衛隊の存在を明記することに
賛成 35.3 反対 52.7

2018年改憲発議に備える

- ・安倍が本気で改憲を目指すなら、2018年に発議するしかない
=今年をしのぎ切れれば、改憲反対の展望は開ける
- ・3千万署名、政党への働きかけ
- ・憲法を軸とした野党再編=希望の党を分裂に追い込む
- ・森友問題、文書改ざん疑惑を徹底的に追及する
- ・安倍の汚れた手で憲法に触るな

③ 抵抗の論点

i 国民投票法の不備

- ・最低投票率の必要性
- ・運動に関する資金面での規制の必要性
改憲を金で買うことを防ぐ
- ・テレビCMの規制の必要性
- ・国民投票と公職選挙を同時に行うことの危険性

=サッカーとハンドボールを同時にするようなもの

ii 9条改正論

- ・9条3項で自衛隊を明記することの問題点
- ・安保法制で変質した自衛隊を追認してはならない
=3項追加は9条破壊の第一段階
- ・立憲主義的改憲なるものは現実的ではない

立憲主義的改憲はナイーブで現実的ではない。左翼に対して超右翼の対案が出て自民党案に落ち着く危険性がある。朝鮮半島を見れば戦争の選択肢はありえない。戦争を絶対しない。自衛隊日報問題では戦闘があったか否か紙一重だ。

専守防衛というパラダイム

- ・戦争の現実的なシナリオ
アメリカが他国を攻撃し、日本がこれをサポートすることで、戦争に巻き込まれる
- ・自衛隊は自国防衛に徹する
- ・国際貢献は非軍事的手段で行う

iii 緊急事態条項の虚妄

- ・緊急事態にたいしてはすでに法律の準備が存在する
災害対策基本法など
- ・参議院の緊急集会という危機管理条項
- ・内閣に大権を与えることに対する対抗原理の欠如

iv 教育無償化の虚妄

- ・自民党はいつから高等教育無償化に賛成するようになったのか
- ・教育の機会均等や貧困層の若者の教育を受ける権利を実現するために、改憲は必要ない

v 解散権の制約

- ・自民党は本気で解散権の制約が必要だと考えているのか
 - ・解散権の制約は国会法で対応できる
- Cf. イギリスの議会法 5年任期の固定
解散には3分の2の賛成が必要

④ ナチスの手口

- ・ヒトラー独裁の成立過程
恣意的な解散
国会議事堂放火事件と共産党弾圧
選挙での躍進と授権法の制定
- ・安倍首相とナチスの手口
2017年総選挙のからくり
恣意的な解散 北朝鮮の脅威

ここで改憲を許せば麻生が言ったようにナチスの手口が現実化する。昨年選挙はまさにフェイク情報である北朝鮮の脅威を強調し3分2を取った。

改ざん、虚偽に基づく総選挙

- ・2017年夏、東京都議会選挙の中で森友問題に対する世論の批判は強かった
- ・疑惑隠しの総選挙で獲得した多数勢力
- ・総選挙そのものの正統性もないことが判明

魯迅の言葉で「そこを歩く人が多くなればそこが道になる。」がある。あきらめてはいけな
い、あきらめるわけには行かない。希望を持って進もう。

結語 希望を見出す
政治とは可能性の芸術である
＝できないと諦めていることを実現する

希望とは地上の道のようなものである。
(中略) もともと地上に道はない。
歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。
魯迅『故郷』

質疑応答

- ・ 若い頃思想闘争と経済闘争と政治闘争があった。今私達の闘争は政治闘争に重点が行っているが経済闘争が中心になるべきではないのか。
- ・ 自民党の政策がひどいのはわかっているが、野党でこれからやっていけるのか心配だ。政策をきっちりつくっていかなければならない。

回答：世論調査を見ていると個人的に生活は苦しく、栄えているのは大企業であり、雇用は不正規が増えているに過ぎない。緊縮財政ではなく雇用の確保などに一定の支出を増やさざるを得ない。官僚以外によるシンクタンクのようなネットワークを作って色々やっていこう。

- ・ 素朴な質問だが三権分立と入っても最高裁は国の言いなりになっている。

回答：任命権が内閣にある。米国では上院の承認審査が必要で、わが国でも衆院選挙と同時に行われる国民審査ではなく別ななんらかの審査が必要だ。

*マイクが不調で全体集会の開催前に半分近くの方々が帰ってしまった。

以下、独断と偏見で講演の肝をまとめて見ました。(by 宇寿山)

安倍政権の特徴

「自己愛の強い幼児的リーダー」「批判に対しては凶暴」「虚言をためらわない」「とんでもない嘘っぱちを連発する」「事実の虚構の区別がつかない」「反知性主義」！！

安倍政権の特徴を整理すると「自己愛の強い幼児的リーダー」「批判に対しては凶暴」になる。怒りの矛先はメディアと学者。「虚言」をためらわない。「とんでもない嘘っぱちを連発する。」「事実の虚構の区別がつかない。」「反知性主義」などだ。

安倍政権は、国際情勢特に北朝鮮情勢に関しては平和を作ることに反対しているのかとしか思えない。北朝鮮の脅威緊張が無いと安倍政権は持たない。一方韓国の政権は冷静に話し合いの道を探っている。日米関係では一体といいながら安全保障を理由に高関税を課せられた。

国家の私物化（森友・加計問題）は近代国家を壊す犯罪的問題だ。政治を信頼できない状況を作り出すえこひいきが横行している。近代国家を壊し家産制国家を作ろうとしている。法の支配の原理が重要であり、国有地は国民の財産で処分には法に従った処置が必要だ。前近代は個人と国家の境目があやふやな時代で、安倍政権になり公私のけじめの崩壊

が起きており前近代と同じ状況になっている。

法の支配から人の支配への逆行が起きている。権力の私物化と権力の乱用が起きている。家産国家といわれる身分的な支配、奴隷の世界となっている。政府の中における規律の崩壊だ。共謀罪のような権力の乱用を招く法律を作るようになっており、罪刑法定主義を崩壊させている。

このような乱れた政府のトップに立つ安倍首相は何を考えているのだろうか。慢心した坊ちゃんとのオルテガの記述があるが、その特徴は欲望のコントロールが無い。法律で明示されていないことは何でもできると考えている。法解釈、報道、経済運営を自分の子分を入れ込み一色に塗りたくる。お友達を優遇する。家の内と外の区別がついていない。

選挙への取り組みについて

「まともな政治、立憲政治の回復」の旗印を掲げ、普通に働けば生活が出来るとの政策を作る！！

選挙への取り組みについてだが、今年の総選挙野党の分裂があり敗北した。立憲民主が出来た背景には15年安保法制への取り組みがあった。民主党内には潜在的に亀裂があった。党内に反対する人があり、選挙で顕在化したのが背景だ。民進党の分裂を見て、小選挙区制の誤りが露呈している。自民以外の結集だけではうまく行かない。小選挙区での当選のみを目的としていては不十分だ。リベラル軸への期待の大きさが立憲民主党への期待となっている。野党のあり方が問われている。いくつかハードルがある。民主党の失敗を繰り返さない。無理に大きな塊を作らない。連合との距離感の問題、連合の利害とは連合の特定の組合すなわち企業の利害となっている。原発問題がその例だ。

京都府知事選では立憲民主無党派がほぼ半々に分かれている。新潟県知事選挙では、原発再稼働の是非が問われたが、野党支持者と無党派層の大半が支持した。野党が一体となり争点を明確にして無党派を取り込んだ結果だ。

幅広い結集が重要だが、立憲は新人が多く使える政治家が少ないこともあり、希望の党と民進の合併を注視したい。まだ希望は使える。希望は右よりの政治家を除こうとしており、そうなれば対象になりえる。中道2党のイメージでしばらくは動かなければならない。政治家の選挙に関する恨み怨念はすごいものがある。立憲と希望で話をつけ右翼を追い払い来年の参議院に向けて候補者の一本化を図るが現実的だ。有権者のトレンドの割合は2保守、2革新、5無党派で、自民党は無党派を棄権させることで勝利している。投票させないことで勝利している。野党の勝つ条件5のうちの2を選挙に行かせ4にすることで勝利する。政権交代に向けては細かいことは気にしてもしょうがない。「まともな政治、立憲政治の回復」の旗印を掲げる。普通に働けば生活が出来るとの考えからの政策を作る。

野党協力をどう作るのか

「人間的な信頼関係」「人間的に面白い、正直だと判るような関係」

安倍政権のむちゃくちゃをどう正すのか

野党協力をどうつくるのか。議案書にある「今年の活動の経過」を見ると判るが、野党をつなぐ接着剤の役割を市民連合は果たしている。新潟ではうまく行った。新潟の市民連合の力と野党の現実的な認識があった。大阪高槻では辻清美の地元だが市民が力をつけている。人間的な信頼関係があればたいいのことは通る。人間的に面白い、正直だと判るような関係を作ろう。政党の究極の理想とはことなるが安倍政権のむちゃくちゃをどう正すのかどうもともにもどすのかを議論するべきだ。